

芭蕉が住み、奥の細道紀行へ出立した地である「深川」。芭蕉が生まれた頃の「深川」に思いを馳せながら足跡をたどります。

深川芭蕉コース

都営地下鉄森下駅は
北緯35度41分17.86秒
東経139度47分53.81秒
でござる。

距離 約2km
目安所要時間 約120分



深川めし

① 深川東京モダン館

昭和7年(1932)竣工の「旧東京市深川食堂」の外観イメージを色濃く残して改修し、平成21年10月にオープンしました。国登録有形文化財(建造物)です。タイル張りの階段まわり、床や壁面には戦渦にも耐えた建設当時の姿が生きています。1階は江東区の観光・まちあるき案内スペース、2階は多目的スペースとなっています。

② 採茶庵跡(さいとあんあと)

湯縁に腰掛けた旅姿の芭蕉像が迎えてくれるこのあたりに、芭蕉の高弟・杉山杉風(すぎやまさんふう)の別荘がありました。芭蕉は、元禄2年(1689)の2月末に芭蕉庵から採茶庵に移り、約1か月後の3月27日早朝、曾良を伴い仙台堀から千住へ、「奥の細道」の長旅に出立しました。46歳の時のことです。幕府御用の魚問屋を営んでいた杉風(鯉屋兵衛)は、芭蕉の経済的支援者でした。絵を狩野昌進に学び、その腕はほとんど専門家の域に達していました。

③ 臨川寺(りんせんじ)

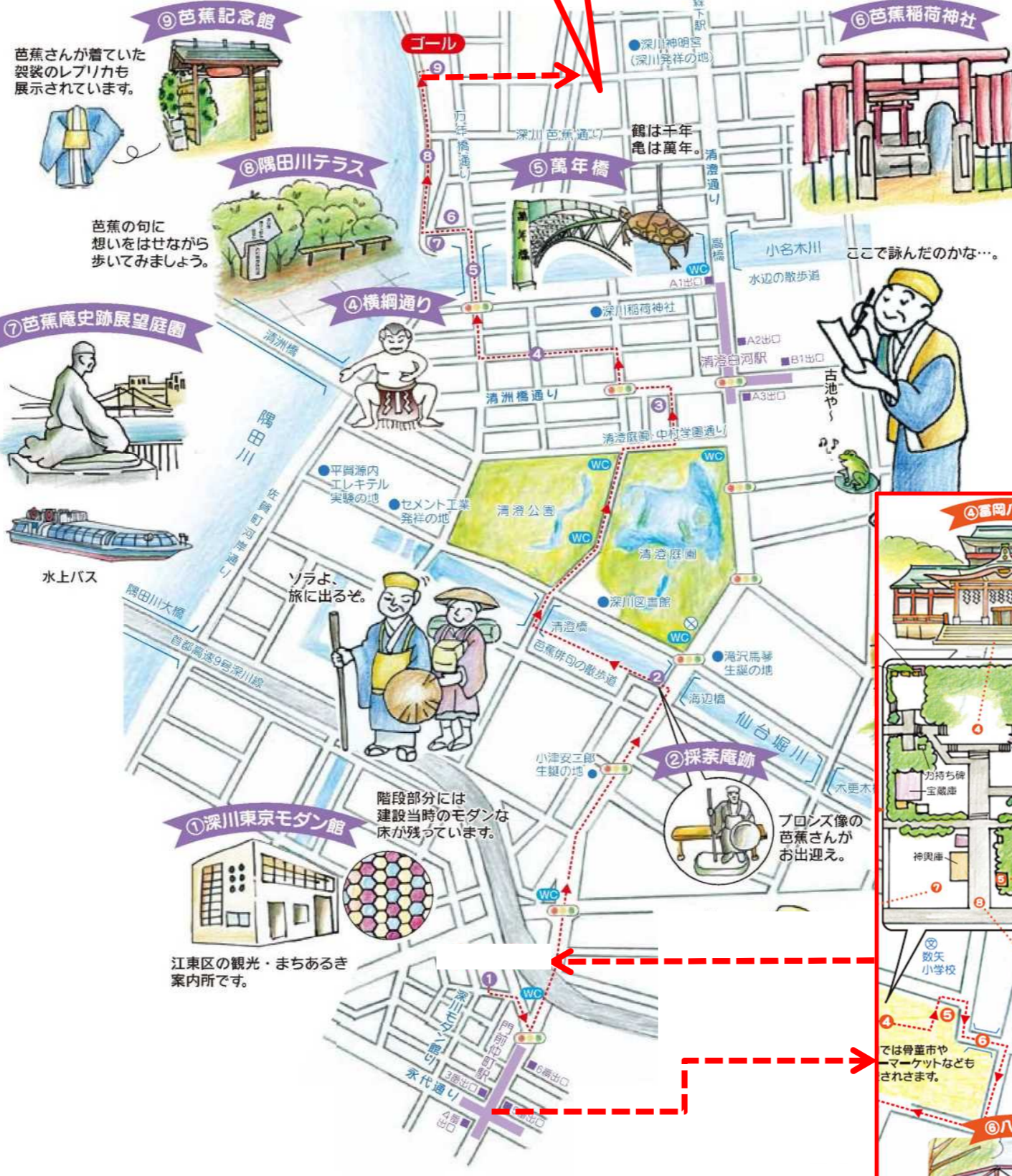
仏頂禅師が寛文の頃(1661~72)に創立しました(当時は臨川庵)。深川に庵(泊船堂)を定め、まだ宗房と称していた芭蕉は仏頂禅師と親交し、禅師との参禅問答から得たとされる俳号が「桃青」、そののち天和元年(1681)、38歳の時に「芭蕉」となります。蕉門の各務支考(かがみしこう)が京都双林寺に建立した鏡塔の墨跡を、俳人神谷玄武坊が写した「墨直しの碑」などが境内にあります。

④ 横綱通り

この一角には五つの相撲部屋があり、地元では「横綱通り」と呼ばれています。清洲橋通りから入ると「鏡山部屋」(元大関・寺尾)、「尾車部屋」(元大関・琴風)、「大鵬道場 大嶽部屋」(元横綱・大鵬)、「北の湖部屋」(元横綱・北の湖)、「高田川部屋」(元関脇・安芸乃島)と続きます。タイミングによっては、お相撲さんの姿や干されている廻し(まわし)などに出会えるかもしれません。

⑤ 万年橋

江戸時代、富士山がきれいに見える名所として知られ、葛飾北斎の「富士三十六景・深川万年橋下」や安藤広重の「名所江戸百景・深川万年橋」に描かれた有名な橋です。創架時の詳細は不明ですが、江東区で最も古い橋の一つで、延宝8年(1680)の江戸絵図には「元番所のはし」として記載されています。この名は、小名木川が隅田川と通じる出入り口にあり、寛文元年(1661)まで橋の北詰に船番所が置かれていたことに由来するものです。現在の鋼橋は昭和5年(1930)に架けられたものですが、それ以前は木橋でした。



⑥ 芭蕉稲荷神社

松尾芭蕉が「古池や 蛙飛び込む 水の音」の句を吟じた芭蕉庵があった場所ではないかとされています。俳句の弟子・杉山杉風が提供した草庵で、のちの文久2年(1862)の切絵図には、紀州藩下屋敷に「芭蕉庵ノ古跡庭中ニ有」と記されています。元禄2年(1689)、奥の細道の旅に出る芭蕉は庵を離れる直前に「草の戸も 住替わる世ぞ ひなの家」の句を柱に残したと記しています。大正6年(1917)、この地を襲った高潮水害の後に「(伝)芭蕉遺愛の石の蛙」が出土し、地元の人々の尽力により「芭蕉稲荷神社」として祀られました。大正10年、東京府の旧跡に指定されています。

⑦ 芭蕉庵史跡展望庭園

平成7年に芭蕉記念館の分館として、隅田川と小名木川の合流地点に建設されました。台上から川面を見渡す芭蕉座像(杉山杉風が描いた肖像画を立体化)は、日中には入口の方を、夕方には清洲橋方向へと自動でほぼ90度向きを変え、ライトアップされた姿で隅田川を行く船を見送ります。一方の壁沿いには、江戸時代の和本に描かれた芭蕉をめぐるエピソードを伝える展示板や、俳号の由来を思わせる芭蕉の樹など、癒しの空間が広がっています。

⑤ 大関力士碑と横綱力士碑

大鳥居をくぐってすぐ右手にある大関力士碑は、明治31年(1898)に9代目市川川十郎と5代目尾上菊五郎が寄付した石材を使用し、昭和58年(1983)に建立されました。初代大関の雪見山一宝庵7年(1757)から霧島開までの名前が彫り付けてあります。「巨人力士身長碑」には、別に等身大の碑がある新遊戯をはじめとした江戸時代の長身力士の名と身長が刻まれ、「巨人力士手形足形碑」には手形や足形が刻まれているので、自分の身長・手・足と比べてみてはいかがでしょうか。境内奥には、江戸時代最後の横綱である12代陣幕久五郎が中心となつて明治33年に竣工した横綱力士碑があり、碑の裏側には歴代横綱の四股名が彫り付けられ、現在では69代白鵬まで彫られています。

⑥ 八幡橋

明治11年(1878)、東京府の依頼によって工部省赤羽製作所において鍛造された都内最古の鉄橋で、国の重要文化財です。当初は、中央区に弾正橋として架けられましたが、関東大震災後の帝都復興事業区画整理により、昭和4年(1929)5月に現在の場所に移されました。明治初期の橋の風格を持ち、菊の紋章が取り付けられており、橋梁史の上からも貴重な橋です。

⑦ 伊能忠敬像

伊能忠敬は今から約200年前の江戸中期に、初めて実測による正確な日本地図を作りました。50歳を迎えた忠敬は、江戸深川黒江町(現・門前仲町1丁目)に移り住み、天文学を本格的に勉強しました。そして、55歳の時に江戸を出発し、15年をかけて日本地図を作りました。その距離は地球1周分に相当します。岡宮林蔵も忠敬から測量技術を学び、蝦夷地の測量をしています。忠敬が、富岡八幡宮を必ず参拝してから測量へ出立していたことにちなみ、平成13年に銅像が建立されました。

緯度及び経度は、電子国土ポータル(<http://portal.cyberjapan.jp/>)にて検索し引用しました。